

## 世界に羽ばたけ！ 米山学友②

## 新興大国インドの日本サポーター

## 15歳で決めた“日本語”の道

ルチさんが日本語と出会ったのは15歳の時。大学で日本語を勉強するいところに会い、この未知の言語に興味をかき立てられました。

「もともと外国語の勉強は好きでしたが、日本語は、文字も発音も、文法も、ヒンディー語・英語とは全く違って、そこが一番の魅力でした」

この時から大学で日本語を専攻することを心に決め、3年後、国立ネール大学の日本語学科に入学。彼女の選択を、家族は温かく見守ってくれましたが、周囲の友達には「日本語なんて勉強して、どうするの？」と、笑われたと言います。

しかし一生懸命に勉強し、日本の国費留学生試験に合格した時には、両親や姉妹はもちろん、親友たちも皆喜び、祝福してくれました。

1990年10月、ルチさんは希望に胸をふくらませ、日本に旅立ちました。

## 卓話に刺激を受けた奨学生時代

流ちょうな日本語を話し、明るい笑顔を絶やさないルチさんは、留学先の熊本大学でも多くの友人に恵まれ、幸運にも、授業で知り合った大学の教授夫妻の全面的なサポートも得、順調な留学生活を送りました。

しかし、修士課程への進学を決めると状況は一変。国費奨学金はすでに終了していたため、経済的な不安に頭を悩ませる日々が続きました。「とにかく自立しなければ」と、アルバイトをかけもちして生活費と学費を稼ぐ一方、できるだけ多くの講義に出て、多忙な毎日を送る

中、待望の米山記念奨学金の合格通知が届き、再び自信と希望を取り戻すことができました。

奨学生として毎月出席した世話クラブの熊本ロータリークラブ（RC）の例会では、大学生活では聞くことのできない、さまざまな職業に関する卓話に、毎回、目を輝かせて聞き入りました。

「例会では必ず面白いスピーチがあり、非常に勉強になりました。当時いただいたアドバイスやサポートが、今の私につながっていると思います」



アブドゥル・カラーム前大統領（左）の通訳を務めるルチさん（中央）

カウンセラーになった長野和男会員からはよく自宅に招かれ、家族ぐるみの楽しい時間を過ごしました。

昨年、外務省の元日本留学者招へいプログラムに選ばれたルチさんは、十数年ぶりに熊本を訪問。「皆さんに直接お礼を言いたい」と世話クラブの例会に出席し、会員との旧交を温めました。

ルチさんはもちろん、長野

会員も「人柄も雰囲気も、当時のままで安心しました」と、久しぶりの再会を喜びました。

## スカウトされ、日本のIT業界に飛び込む

熊本大学大学院修了後の95年、ルチさんはいったんインドに帰国し、フリーランスの通訳に。その後、日本のIT企業視察団の通訳が縁で、東京の情報システム会社に正社員として入社しました。

一年後、入社時にスカウトしてくれた上司の独立を機に、ルチさんもその新会社に転職。尊敬する上司のもとで仕事ができるのは幸せでしたが、仕事には厳しい人で、トラブルの発生をメールで顧客に報告する際には、15回書き直しを命じられたこともありました。

中国と並び新興国の筆頭に挙げられるインド。高い成長率を示す市場の可能性に引かれ、日本企業の進出も相次いでいます。今年2月には日本とインドとの間で貿易や投資を自由化するEPA（経済連携協定）が締結され、経済交流の進展が期待される中、米山学友のルチ・ネタニさんは、インドでは数少ない日本語の同時通訳として、また、日本のIT企業のパートナーとして、両国間のビジネス拡大のために尽力しています。



しかし日本企業での仕事の仕方、上司や同僚、顧客とのコミュニケーションの取り方など、この時に体で覚えた仕事の基礎は、現在のルチさんの2つの職業に大きく生かされることになったのです。

### いずれは家族のような関係に

2000年に同社のインドにおける関連会社として、NTSSというソフトウェア開発会社を立ち上げ、ルチさんは取締役役に就任しました。「品質にこだわる日本の顧客に満足してもらえる製品を」と、顧客との細やかなコミュニケーションを心がけています。

現在、日本語通訳とIT企業社長という二足のわらじをはいてインド中を忙しく飛び回るルチさんですが、「通訳は天職」と、15歳の時に決めた道は変わっていません。日本のビジネス界の常識や、経営者として身につけた洗練された言葉遣いなど、「経験がすべて、現在の通訳の仕事に生かされている」と言います。

高度な日本語能力だけでなく、日本の商習慣や社会通念まで深く理解しているルチさんは、急速に緊密化する日本とインドのビジネスをつなぐ懸け橋として、両国の行政・企業にとって頼もしい存在です。ルチさんのもとには、インドの大統領や首相、両国の大臣、自治体の首長、企業の代表など、VIPクラスの通訳の依頼が引きも切らず、国際会議やセミナーにも引っ張りだこです。

日本企業がインド市場について真剣に検討を始めた

### プロフィール



#### ルチ・ネタニさん

(1993 - 95年 / 熊本RC)  
インド出身。1990年、日本政府の国費留学生として熊本大学に留学。95年に同大学院で修士号取得。IT企業勤務を経て、2000年、インドにソフトウェア開発企業NTSSを設立。同社社長を務めるとともに、日本語同時通訳として活躍中。

今、ルチさんは、自らの役割を次のように語ります。

「インドの社会構造は独特で、日本や東南アジア、欧米の常識があてはまらないことが多々あります。しかし、かつての私がそうであったように、理解しようという気持ちがあれば、超えられない壁はありません。日本とインドの間で、ビジネスの多様化と拡大をサポートすることが私の役割であり、両国の関係が親友、そしていずれは家族のようになることが私の夢です」

#### ロータリー米山記念奨学会事務局

米山記念奨学事業に関するお問い合わせ・ご意見、または「よねやまだより」についてのご意見を、(財)ロータリー米山記念奨学会まで、ぜひお寄せください。

TEL: 03-3434-8681 FAX: 03-3578-8281  
Eメール: mail@rotary-yoneyama.or.jp

### NHKハンゲル講座に米山学友がレギュラー出演中!

歌手としても活躍中のジソンさん



2009年にデビューし、クラシカルポップス歌手として日本で活躍する米山学友、ジソンさん(2007 - 08 / 昭和音楽大学大学院 / 大和RC)が、NHK教育テレビの「テレビでハンゲル講座」(毎週火曜 23:00 ~ 23:25、再放送・土曜 6:00 ~ 6:25)にレギュラー出演しています。Jisongさんはネイティブゲストとして、生徒役のタレント・大沢あかねさんのサポート役を担当。「正確で美しい発音を心がけたい。ロータリアンや家族の皆さまに見ていただけたらうれしいです。一人でも多くの方にハンゲルを知ってもらい、楽しく勉強できるように頑張りたい」と、意気込みを語っています。

※ Jisongさんについては『友』2009年6月号横組み本欄(P14 ~ 15)でも紹介しています。